

医師の異動

4月1日より着任

皮膚科 整形科 眼科
救急センター
臨床研修医

松尾 導昌
木下 里江子
濱中 宏光
小谷 美央
箕原 順也
竹森 幸徳
壺坂 正良
高島 健二
水原 誠士郎
藤井 陽子
綱島 智弘
藤原 格
榎本 毅
勝部 宇生
常城 真希
井上

3月末日にて退職

内科 外科 眼科
救急センター
臨床研修医

山澤 充俊
中村 久美子
清田 裕生
多田 敬
井上 達也
武岡 由樹
宮地 晃
西尾 優志
西村 殊寛
福永 とも子
濱田 徹
合田 菜穂
高山 弘志



医師の異動に伴い診療時間の変更があります。同封の「医師診療時間表」をご参照ください。

市民公開講座のご案内

第8回市民公開講座

テーマ：『胃がんに関する話』を平成26年3月1日に当院研修センターで開催しました。



今後の開催予定

参加無料・予約不要・無料駐車券配布

予告 第9回市民公開講座

【テーマ】『脳卒中の予防と治療』

【講師】当院 脳神経外科医師 巽 祥太郎

【日時】平成26年4月5日(土)10時～11時30分

【場所】当院研修センター

5月の市民公開講座は
お休みです。

平成26年4月より地域医療連携室の営業日時を下記のように変更いたします。

地域医療連携室 診察予約受付業務時間

平日 8時45分～19時00分

木曜日 8時45分～17時00分

土曜日 8時45分～12時30分

《日曜・祝日・年末年始は除く》

休診日や診療時間外に頂いたご予約で、各診療科の判断が必要な場合は、お返事が休み明けの診療日になる場合がございますが、ご了承ください。

診察カレンダー

は全科休診日

4月

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

院是 和

私たちは、医に仕えるものとして、
医のこころの真髄を求めて常に自己研鑽に励み、
最善の医療を患者さんに提供しよう努力します。

そして、患者さんとの「和」、職員相互の「和」を大切に、
地域の中核的基幹病院として、他の医療機関との連携を深め、
地域住民の皆さんの健康維持増進に寄与しよう尽くします。



やすらぎ



和(輪)



希望



当院のがん診療について

病院長 橋 史朗

春の気配に心浮き立つこの頃ですが、先生方におかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素は広畑病院に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当院は、平成24年10月に兵庫県がん診療連携拠点病院に指定されました。これは、これまでのがん診療の実績ならびにがん患者サポート体制の整備が認められた事によります。多数の医師に加えて、がん専門看護師、認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、臨床心理士などが、がん患者さんの治療をサポートし、がん相談室の拡充も行っています。また、毎月開催する市民公開講座でもがん診療の啓蒙活動を強化しています。

消化器内科での早期胃がんや大腸がんの内視鏡治療（ESD）、外科での腹腔鏡手術は、著しい症例数の増加をみっていますが、今年のトピックは放射線治療装置の更新です。3月から更新作業に入っておりご迷惑をおかけしていますが、12月には強度変調放射線治療（IMRT）装置の運用が始まります。この装置は腫瘍のみに放射線を集中でき、周囲正常組織への線量を減らせることで副作用も軽減され、効率よく放射線治療を行うことが可能です。

日本人の2人に1人ががんに罹患するようになってきました。今後、高齢化の進展とともに、さらにこの割合は増加するものと考えられます。当院は、安心してがん治療が受けられる体制の維持・拡充に努めて参ります。何卒ご支援、よろしくお願い致します。

がん拠点病院としての取り組み — 外科 —

現在、当院の外科は理事長と院長以下、6名のスタッフ、3名の後期研修医、1名の初期研修医で診療を行っています。一般外科、腫瘍外科、胸部外科、血管外科、救急外科に対応しています。

腫瘍外科については肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、肝がんの5大がんを中心に、食道がん、胆道がん、膵がんなどの治療も行っています。がんの治療は手術、化学療法、放射線療法を用いた集学的治療がどのがんにおいても重要になってきています。当院では個々の患者さんに対して毎週の外科カンファレンスのみならず、内科、放射線科との合同カンファレンスを月2回行っており、それぞれの立場から意見を交換し、患者さんに最も適した治療を提案し実践しています。

がん治療の特徴としては、低侵襲を目的とした腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術の導入はもちろんですが、あくまで患者さんの為の手術であるため、全身状態を考慮した手術選択をカンファレンスで決定しています。また、血管外科もあるため、膵がんに対する膵頭十二指腸切除の門脈再建や遊離空腸などの複雑な治療に対しても対応可能となっております。近年、化学療法の進歩は目覚ましく、特に大腸がんに対しては分子標的薬、新規抗がん剤の導入があり、StageⅣの患者さんに対しては、手術と化学療法を組み合わせた最も適した治療法を検討しております。いわゆるオーダーメイド治療に心掛けております。術後の食不振や腸閉塞などの術後合併症に対しても丁寧に診察し、必要時には入院加療をしております。再発症例には身体に対する対症療法はもちろんの事、患者さんやご家族に対するケア、さらに末期患者さんに対する精神的な緩和ケアも行っております。



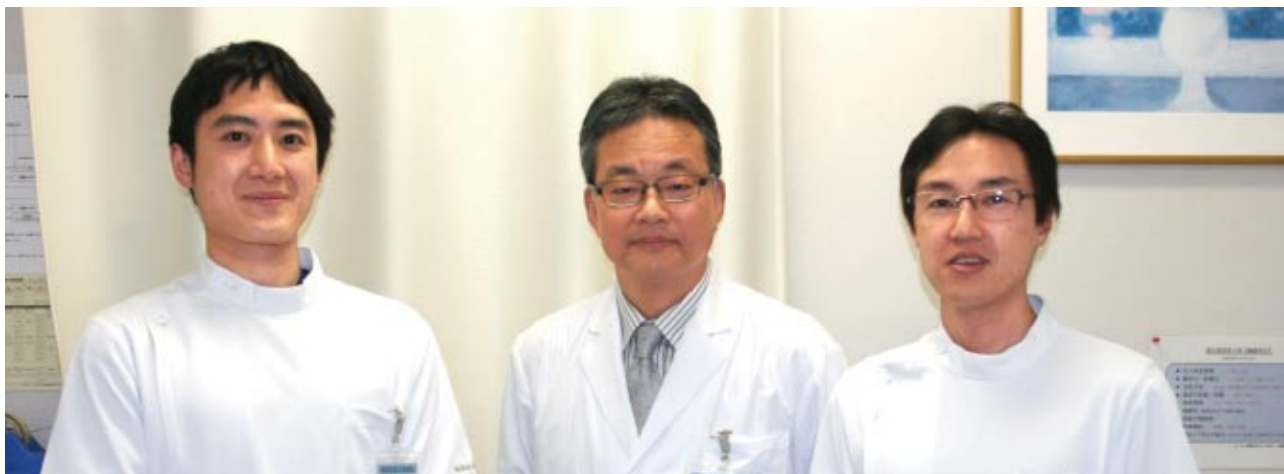
当院の外科はがん患者さんの手術、化学療法、合併症救急、さらに緩和ケアまで行っており、「手術する責任」と「患者さんへの愛」をモットーに治療を行っております。

救命救急センター開設後は一層緊急手術が増え、夜間休日でも手術に対応する当番医を配置しており、24時間体制で手術ができるようにしております。最近の外科医はがんの手術に重きをおき、救急疾患ができない専門医も多くなっている傾向のように思われます。専門医療技術あるいは臓器別

専門性も非常に大切ですが、患者さんは一つの臓器でできている訳ではなく、トータルに患者さんを診る医療の専門医も必要ではないかと思っております。当院のスタッフは幸い救急疾患にも積極的に受け入れるモチベーションをもった医師がそろっています。

製鉄記念広畑病院外科チームをこれからもよろしくお願い申し上げます。





左から、松尾医師、巽医師、宮本医師

地域の先生方と共にチーム力で患者さんをサポート

現在、脳神経外科の常勤医師は巽祥太郎（昭和60年卒）、宮本宏人（平成7年卒）、松尾和哉（平成22年卒）の3名で、各科医師やコメディカルの協力を得ながら、脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷や三叉神経痛等の機能性疾患まで脳神経外科手術全般に対応しています。

昨年、姫路救命救急センターが開設されてから緊急手術件数が飛躍的に増加しましたが、救急医との良好な連携により脳神経外科診療に特化できるため、少ない医師数で多くの手術に対応が可能となりました。同センター内の手術室も利用することで来院後30分での手術開始が可能となり、治療成績の向上に繋がっています。現在、脳卒中や頭部外傷等の救急疾患は同センターでの対応となり、初期診療はほぼ全て救急医が担当しますが、tPA適応等の超緊急例では初めから脳神経外科医も協同する体制となっています。放射線スタッフも常時1名、多忙時2名体制で常駐しており、MRIや脳血管撮影なども24時間対応可能です。

予定手術では、未破裂脳動脈瘤・頸動脈狭窄症等の脳血管障害の予防手術や良性脳腫瘍の摘出術を安全に行うことに力を入れており、エコーや術中電気生理モニターを駆使して合併症のきわめて少ない結果を残せています（幸い開設以来予定手術で死亡例や後遺症の残った例はみられていません）。また、手術適応や手術を決めるまでのプロセスを大切に考えており、外来で十分な時間をかけて、患者さん自身に出来るだけ冷静に病状・治療についてご理解して戴けるよう努力しています。その結果、手術は行わず経過観察中の患者さんや数年の経過観察の後に手術となった患者さんも多くみられます。

悪性脳腫瘍の治療では正確な手術摘出と共に術後の放射線治療や化学療法が重要ですが、最新鋭のIMRTの導入も決まり当院で質の高い治療を完結することが可能です。

外来診療では、まれな疾患を見逃さないきめ細やかな診療を行うとともに、重篤な病状でない患者さんには、出来るだけ早く安心をお届けすることも大切と思っています。頭痛や痺れ等ご心配な症状がみられるときには、いつでもご紹介をお願い致します。

脳神経外科の救急患者さんの多くは、急性期医療のみで治療を完結するのは困難です。当院では、脳神経外科医、神経内科医、リハビリテーション科医、看護師や医療ソーシャルワーカーなどが、あらゆる角度から総合的に患者さんをサポートしています。これからも、地域の先生方と共に、チーム力で患者さんをサポートし、切れ目の無い良質なケアを提供して行きたいと思っています。引き続きご指導をよろしくお願い申し上げます。

外来化学療法室

当院の外来化学療法室は2005年（平成15年）に開設し、病床数は8床（リクライニングチェア3台、ベッド5台）で、がん患者さんへの抗がん剤治療やクローン病・潰瘍性大腸炎患者さんへのレミケード治療を実施する治療室です。ここでは、1日平均8名、年間約1,800名の患者さんが治療を受けており、がん化学療法看護認定看護師や外来看護師が治療を受ける患者さんの点滴の管理、副作用のマネジメント、セルフケア支援、心理ケアなどを行っています。ウィッグの紹介やスキンケアの指導、パンフレットの提供等も行っています。



患者さんは治療が長期化すると闘病意欲が低下したり、治療の効果がなくなると他の抗がん剤治療に変更



したり、緩和ケアに移行することがあります。看護師は患者さんがどのような気持ちで治療をうけているのか、治療を受ける中での心配事はないかなどを聴いて、患者さんと話し合いながら治療が継続できるようにサポートしています。



第7回製鉄記念広畑病院市民公開講座抄録

平成26年2月1日（土） 当院研修センターにて開催

テーマ：「認知症の理解と認知症高齢者への関わり方」

老人看護専門看護師 森山 祐美

現在、65歳以上の高齢者の4人に1人は認知症とその予備軍であると言われています。認知症の理解が深まることで、認知症高齢者が残りの人生をその人らしく生きることができ、介護する方々も健やかに安心して介護できる…。そんな世の中になることを願いつつ、お話しをさせていただきました。

<今回お話しさせて頂いた内容>

- ・生理的加齢による「もの忘れ」と認知症による「もの忘れ」の違い
- ・早期発見のめやす
- ・認知症の診断基準、診断のための様々な検査
- ・主な認知症の種類と治療
- ・対応が難しい症状の原因を探ることと関わりのポイント
- ・認知症の人の理解
- ・一人で抱え込まない介護

皆さん、とても熱心に耳を傾けてくださっていました。

